

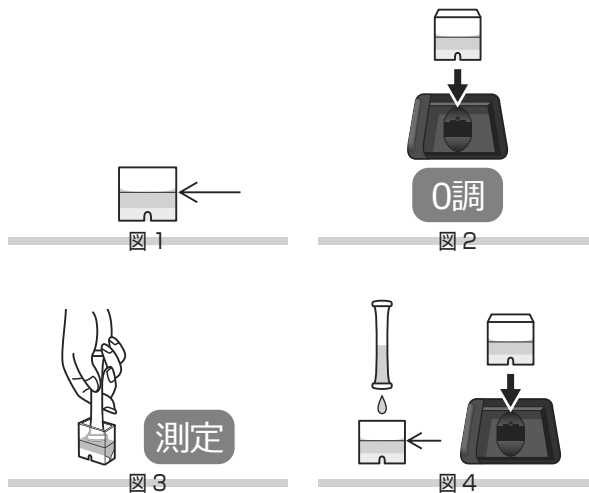
Cr⁶⁺ 6価クロム

発色：無色→淡赤→赤→赤紫
 測定原理：ジフェニルカルバジド法
 測定範囲：0.05 ~ 1.50 mg/L (ppm)
 試薬：WAK-Cr⁶⁺ チューブ
 測定時間：チューブに吸い込み後 2分

セル：専用カップ
 使用波長：542 nm, 580 nm, 670 nm

測定方法

1. [Cr⁶⁺] を押します。
2. 【決定】 を押し、測定画面に切替えます。
3. 検水を、専用カップに1.5mL(線まで)採ります。(図1)
4. 専用カップをセルボックスに入れ、【0調】 を押します。(図2)
5. パックテストのチューブに、専用カップの検水を全量吸い込み、同時に【測定】 を押します。(図3)
6. 5. のチューブを軽く5 ~ 6回振り混ぜて、すぐに専用カップにチューブ内の測定液を静かに戻し、セルボックスに再びセットし静置します。(図4)
7. 経過2分後に濃度が自動表示されます。



注意

1. この方法では、検水中の6価クロム (Cr⁶⁺) が測定されます。
 3価クロム (Cr³⁺) を含めた全クロムを測定する場合は、「Cr⁺ 全クロム」の項目をご参照ください。
2. 発色時の最適 pH は2以下です。pH9以上の検水は希硫酸等で中性以下にしてください。
 特に生コンクリート業などの廃液など pH が高い場合にはご注意ください。
3. 検水の温度は15 ~ 30℃で測定してください。

共存物質の影響

内蔵の検量線は、標準液を用いて作成しています。他の物質の影響が考えられる場合は、公定法と比較するか、標準液添加法により測定値を確認してください。

右表は、標準液に単一の物質を添加した場合の測定値への影響データです。

海水は影響しません。

還元性物質が検水中に共存すると、6価クロムが3価クロムに還元されます。このような場合には全クロムとして測定してください。

| | |
|------------------|---|
| 1000mg/L以下は影響しない | …Ba ²⁺ , Ca ²⁺ , Cl ⁻ , CN ⁻ , Co ²⁺ , I ⁻ , K ⁺ , Mg ²⁺ , Mn ²⁺ , Na ⁺ , NH ₄ ⁺ , Ni ²⁺ , NO ₃ ⁻ , PO ₄ ³⁻ , SO ₄ ²⁻ , Zn ²⁺ , フェノール |
| 500mg/L | // …Al ³⁺ , F ⁻ |
| 250mg/L | // …B ³⁺ (ほう酸) |
| 25mg/L | // …NO ₂ ⁻ |
| 10mg/L | // …Ag ⁺ |
| 5mg/L | // …Cu ²⁺ , Mo ⁶⁺ (モリブデン酸) |
| 2mg/L | // …Fe ³⁺ |
| 1mg/L | // …残留塩素 |
| 少しでも影響する | …V ⁵⁺ (バナジウム酸) |

試薬に関するお知らせ

パックテストに付属の使用法をご参照ください。

測定液は pH2以下です。